

私、卵子博士を目指してます!〜心の声を信じて、気負わず、やり通す〜

木村直子 (山形大学大学院農学研究科動物機能調節学分野 教授)

仕事の内容とやりがい

現在、哺乳類の卵子の発生・発育のメカニズムと酸化ストレスや加齢の影響を研究テーマに展開しています。培養系や加齢した卵子でみられる発生異常を解明し、産業動物生産や高度生殖補助医療の現場で応用できる技術開発に繋がりたいと考えます。私にとって研究とは、様々な情報をもとに、鉱山に眠っている金塊を掘り当てるような、あるいは見たことのない絵のジグソーパズルを完成させていくようなものと思います。大きな金塊を掘り当てた時、パズルの重要パーツを見つけ、いよいよ絵の全体像がみえてきた時、これほどワクワクする瞬間はないと思いませんか?研究活動を通して学生達には、日々地道でいろんな困難がありますが、一生の大半を割く仕事に何かワクワクを見つけて取り組むことが、結局は楽しく生きる術になることを感じてくれたらと思っています。

仕事と生活のバランス

シングルなので、生活は至ってシンプルです。女性としてパートナーを得て、子を持ちたいと思うのは生物の本能かもしれません。自分は、生物学をしながら大自然の法則に反した生き方をしているのではないかと苦く思う事もあります。女性研究者が仕事と家庭を両立する上で、パートナー選びが重要とよく聞きます。同じ職場や似た職種の方が、互いの仕事への理解を得られ易いことは、頭ではわかっているのですが。残念ながら、自分と違う空間にいる人を好む性向があり、不器用な私は、結婚か仕事かの選択に迫られる状況が度々あり、現在に至ります。女性研究者がパートナーを得るためには、感性だけではなく戦略が必要なのかも?と最近思っています。

進路決定のきっかけ

高校では、一つの答えや理由を探す数学や理科が、自分の性分に合っていたため理系に進みました。中学・高校の頃は、自分が将来働くということを実感できず、進路と職業を直結させて真剣に考えることができませんでした。ただなぜか、数学と動物の体の仕組みには興味がありました。私が真剣に研究職で生きていこうと考えたのは、入社後でした。顕微鏡からしか見えない0.1mmの卵子が、何であんな大きな牛になるわけ?と考えるとワクワクしました。同時に、当時会社にあったグラスシーリングを破るためには、私のような凡人女性がもっと努力して、社会で実績を作り、女性評価の底上げをしなければ変えられない、という自覚が、多少芽生えたせいかも知れません。退社して、方向転換しました。

進路選択に対するメッセージ

人に話せるような立派な目標を持って生きてきたわけはありませんが、今の自分の姿(職業や生活スタイル)は、自分がイメージしてきたものに概ね近い気がします。人生の大きな選択を振り返ると、結局は、自分が一番したいことを直感的に選択してきたのだと思います。理屈や理論を考えて行動することは大事ですが、人生の大きな選択は、意外にシンプルに、自分の心の声に素直に従うことが、自分にとってのベストチョイスだと思います。まず5年後、10年後の自分の姿を想像してみてください(消去法でもOK)。そのイメージに近づくためには、今どっちの道を選択したらよいか、今どんな準備ができるのか、漠然とも考え続けることが大切だと思います。そのうち、ある日突然、よしスタート!と決心できる日が来ると思っています。一旦決めたら、自分を信じて、結果が出るまで走り切ることが大切ではないでしょうか?

<木村直子(きむらなおこ)プロフィール>

- 1992年 東北大学農学部畜産学科卒業、伊藤ハム(株)入社(中央研究所・研究員)
- 1998年 同社退社、東北大学大学院農学研究科博士課程後期3年に編入学
- 2002年 同大学院修了、農学博士取得、生物系特定産業技術研究推進機構・派遣研究員
→東北大学大学院農学研究科・技術補佐員
- 2003年 山形大学農学部・助教授
- 2005年 岩手大学大学院連合農学研究科・助教授(兼任)
- 2011年 山形大学農学部・教授、岩手大学大学院連合農学研究科・教授(兼任)

